

こんにちは。さいとう石材です。

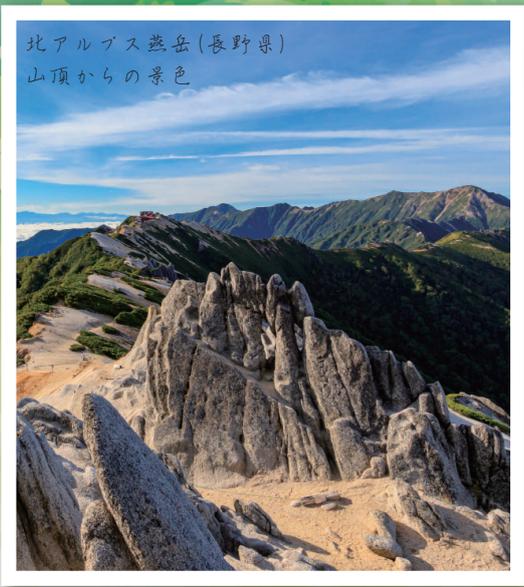
# 石だより



## 新

新緑の美しい季節となり、いよいよ行楽シーズンの到来です。5月下旬から各地で順次山開きが始まりま

す。山に繰り出す方も多そうですね。標高千メートルを越すような山では新緑の山道を抜け、森林限界（木々が森林を形成出来ない限界線）を超えると岩と石で構成される世界となり、これもまた壮観です。



北アルプス 燕岳 (長野県)  
山頂からの景色

## 侮るなかれ 「他山の石」

山々が連なる風景を眺めていると「他山の石」という慣用句が思い浮かびます。よその山から出る質の悪い石も、寶石を磨く砥石としては役立つという意味が転じ、他人のよくない言動も、自分を省みる材料とすれば自己の成長に役立つという意味で使われます。ただ、石屋から一言申し上げますと砥石とというのは質の悪い石どころか、とても貴重なものです。人造砥石が多くを占める中、日本刀や和包丁を研ぐ際の仕上げには今も天然砥石が用いられています。産地の岩山から適した硬さをもつ良質な石を採掘するには、長年の経験や技術を要します。加えて全国各地に点在する産地のいづれも資源の枯渇や職人の後継者不足を抱えており、天然砥石は大変希少です。

周囲に転がっている石が、砥石として使えるわけではないのですが、そこはたとえ話。身近にある石を見て、この慣用句を生み出した昔の人の発想力に脱帽ですね。

なお、「先輩を他山の石として精進します」というような使い方はNGです。

「他山の石」は  
目上の人に対して  
使ってはいけません。



裏面「写真に一言」を  
ぜひお読みください

### 株式会社 齋藤石材



本社 Tel.0229-67-3036 加美郡加美町字中原 25-14  
古川店 Tel.0229-28-3744 大崎市古川休塚目見田 1-3  
メール: isi@isi5.com

ホームページへは、「齋藤石材 宮城」で検索または、右上QRコードでアクセス↑

# 石の神様 訪問記 ②

## どんがめっさん

(兵庫県姫路市家島)

姫路港から定期船に乗り約30分で家島に到着。大小44の島々から構成される家島諸島には、4つの有人島(家島・坊勢島(ぼうぜじま)・西島・男鹿島(たんがじま))があり、家島は其中最も人口の多い島です。

島の中心地にある真浦漁港のすぐそばには「どんがめっさん」と呼ばれる巨石が鎮座しています。大海亀が南波国(今の大阪)に行った主人の帰りを今か今かと待ち続け、そのまま石になってしまった姿とか。今は航海の安全を司る水神として信仰されていて、100回頭をなでると願いごとが叶うと言われています。

ちなみに家島諸島は石材の産地として100年以上の歴史があり、産出した石は大阪城の石垣にも使われました。今でも男鹿島では花崗岩、西島では安山岩の採石が行われています。

姫路港から観光地として有名な小豆島行きフェリーも出ていますが、このコロナ禍は人の少ない静かな島々で路地をのんびりと散歩するのもよいものです。



「どんがめっさん」の首にはしめ縄がかけられている。



港に停泊する船。

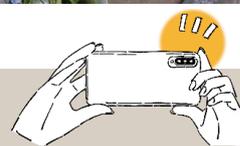


高台にある家島神社から男鹿島を望む。採石の跡が見られる。

# お参りの花

今月の一押し

まさに夏の太陽を思わせるヒマワリ。花屋さんの店頭には早くも5月頃から並びはじめます。花が小さめのものはお墓の供花としてもおすすめ。鮮やかな黄色は墓石の黒みがかった色にも映え、本数が多なくても存在感が際立ちます。今回は青色が涼しげなデルフィニウムと合わせました。夏が好きだった方の墓前にお供えすれば、きっと喜んでくれるでしょう。



## スタッフの「写真に一言」

加美町はどこを見ても田植えが終わり、無事美味しいお米がとれますようにと毎日の通勤時に願うばかりです。

緑豊かで空気もおいしく、あったかい人がいるこの街で仕事ができることに、感謝感謝です。

年頃なのか？ 人の温かみと応援をととても感じる、今日この頃・・・ (株)齋藤石材 齋藤久美子

今月の予定

- 6月1日 (水) …衣替え
- 6月10日 (金) …時の記念日
- 6月11日 (土) …入梅
- 6月19日 (日) …父の日♥
- 6月21日 (火) …夏至
- 7月18日 (月) …海の日

定休日

加美町本社：毎週土曜日・日曜日  
大崎市古川店：毎週木曜日・その他不定休あり

石だより

